

学校概要

創立	6周年	学校長 石川 秀子	副校長 米山 明央	学期	2 学期制	児童・生徒数	304人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 2				主な関係校: 上白根中学校			

学校教育目標

このまちに生き、共に輝く子

- 課題解決に向け、粘り強く取り組む子を育てます(知)
- 自分も相手も大切に思いやりのある子を育てます(徳)
- 心身共に健康で、あらゆる命を大切に育てます(体)
- 人のために役立つ行動をし、地域に愛着をもつ子を育てます(公)
- コミュニケーションの力を伸ばし社会への視野を広げ実践できる子を育てます(開)

学校の特徴

- 学校は静かな市営・県営集合住宅の中にあり、四季の森公園やズーラシアもあり、自然環境にも恵まれている。
- 1小1中ブロックのため、9年間で子どもを育てる教育環境があり、小中学校での情報交換を密接に行うことができる。
- 規模が小さいため、子どもの実態を細やかに把握することができる。□児童は素朴な自尊感情をもち、学校生活への満足度が高い子が多い。■学校周辺団地の少子高齢化により学校規模が縮小し学校運営上の人的余裕がないため、一人ひとりの教職員が分担する業務が多い。■経験の浅い教職員の増加と教職員の入れ替え時期が重なり、それぞれのキャリアステージにあった人材育成が必須である。■家庭の教育力に差があり特別支援の必要な子どもと保護者が多数存在する。

学校経営中期取組目標

- 一人ひとりの思いや願いなどを丁寧に受け止め子どもに寄り添いながら、温かな人間関係を育てていきます。
- 家庭や地域・幼保小中と連携し、保護者がわが子を通わせたいと願い、子どもが心から明日も来たいと願う学校づくりを目指します。
- 問題解決学習に取り組む共に学ぶ楽しさを実感しながら基礎的な学力を身につけられるよう、授業力の向上を目指します。

小中一貫教育の取組

上白根中	ブロック	上白根中学校 四季の森小学校
9年間で育てる子ども像	○基礎・基本の学習の習得に努め、ともに学び続けられる子ども ○互いに認め合い、心と体を健やかに、正しく判断でき、行動できる子ども	
自校の具体的取組	・小中学校で子ども像を共有しながら生活指導や特別支援教育の情報交換を密に行う。 ・年3回の小中合同会議や年4回の小中授業参観、小中授業実践研修を通して9年間での授業作りを推進する。 ・学習状況調査のデータを小中学校で考査し、学力に関する重点目標を共有し、授業に生かす。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	一人ひとりの児童の学ぼうとする意欲を高め、わかる授業、関わり合える授業、追究の楽しさのある授業を目指す	①授業力向上のための授業研究会を充実させると共に年間を通して校内研修を充実させ、授業改善や指導力の向上に努める。②教職員の共通理解の上、学習に向かう基本姿勢をしつける。③学習習慣が身に付くよう家庭学習を促す。④一人一人の学習状況を把握し、学習意欲につなげるためノート指導を徹底する。
豊かな心	人やものとの豊かなかわりや多様な体験活動を通して、豊かな心と規範意識・物事の善悪をきちんと判断し人権を尊重する心を育てる。	①年間を通して仲良し班遊びの時間を設定し縦割り班活動を通し異年齢同士のつながりを築く。全校遠足、運動会等も縦割り班を活用しかわり合いを大切にする。②挨拶を学年に応じて指導するとともに子ども自身の取組として代表委員会等でも展開する。③小中協力して人権研修の場を設け、規範意識・物事の善悪を判断し人権を尊重する心を育てる。
健やかな体	児童の体力向上と自己の健康管理能力を高め、不登校の解消につなげる	①学校便りや保健便り・学級指導を通して早寝・早起き・朝ご飯の習慣化を図り、児童の体力向上と自己の健康管理能力を高める。②給食後の歯磨きに全校で取り組む。③長縄やドッジボール大会など運動に親しむ機会を増やす。④給食指導に教職員の共通理解のもと取り組み、異物混入等の危機を未然防止し安心安全な給食を実施し、食教育に取り組む。
児童・生徒指導	規範意識を育てると共に自尊感情を育て、温かな人間関係作りを努めます。	①児童支援専任教諭を中心に、教職員全員で共通理解のもと児童指導に当たる。②毎月の職員会議等で児童についての情報交流を行う場を設け、全職員で指導の方向性を一致させて支援に取り組む。③情報の共有、報告・連絡・相談の励行と経過の記録を蓄積する。
特別支援教育	配慮を要する児童に適切な支援を行うため、教職員の連携・情報交換を密にし学校支援体制の充実を図ります。	①特別支援コーディネーターを中心に関係機関やSC、非常勤講師との連携も充実させる。②一人ひとりの課題に応じた個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成する。特別支援コーディネーターを中心に学校支援体制の充実を図る。
教師力の向上	教職員の児童理解の質を高め、危機管理能力を向上させます。	①特別支援教育を基盤に教職員一人ひとりの児童理解の質を高める。②教職員が各々の専門性を生かし、互いの学級経営や授業を見合いながら自他共に授業力・教師力を高める。③教職員が積極的に研修に参加し、視野や見識を広めることができるよう支援するとともに、研修内容を校内に還元できるよう促す。
地域と学校との連携	保護者・地域のサポートを生かし、開かれた学校づくりに努める	①学校説明会や学校便り、メール配信など、学校からの情報発信を工夫する。②上白根中学校区学校運営協議会の意見を真摯に受けとめたり保護者や学生ボランティアの協力を積極的に取り入れたりする。児童の安全対策について発信、協力を依頼する。③幼保小連携の一層の充実を図る。④学校開放等のルールを見直し基本に立ち返った運用を目指す。
人材育成・組織運営	教職員一人ひとりが自分の役割を自覚し良さを発揮しながら、それぞれのキャリアステージにあった役割に取り組む。	①初任研の充実を図り、併せてメンターチームによる人材育成研修を活性化させる。②経験値の高い学年主任と若手という学年体制を基本に、日常の業務中の学びをお互いの成長につなげる。③主幹教諭を中心とした組織の中で、教職員一人ひとりが自分の役割を自覚し良さを発揮しながら、提案型組織となるようにする。